

平成 21 年 7 月 13 日

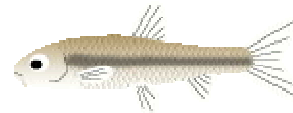
第 71 回定例会の案内

7 月 20 日(月、海の日) 午前 10:00 ~ 12:00 於 田主丸支所

水辺の教室(耳納塾協賛) 参加

巨瀬川の魚類調査を兼ねて魚取りをします。

サデ網、バケツ、胴長等魚取りができる準備をお願いします。



第 71 回定例会 6/28(日) 10:00 ~ 12:00 於 田主丸中学校

【情報交換】(国武)大きな水槽に入れて飼育している。(成田)五月に 2~300 個ぐらい産卵して、今度はうまくいったと思ったが、水カビが発生して 20 尾くらいになった。6 月初めに 4~500 個と思ったが 10 尾くらいになった。一昨日も生まれたが、うまくいっていない。水カビにはどう対応したらいいのだろうか「未受精卵は水カビにやられる。(村上)」。(佐東)ベランダに設置した 13m の水槽で飼育産卵させている。稚魚は 100 尾くらい育っている。夜中に生まれたばかりの稚魚を水槽から取り上げる方法で育てている。(甲木)4/14 産卵分の 7~80 尾が、水草を入れてなかったためか 20 尾になった。5/12 に生まれた分は水草ごと 60 センチ水槽に入れて 4~50 尾、5/22 産卵分はバケツに入れて水草を抜いたが 150 尾ぐらいいたのが 20 尾になっている。水草と一緒にの方が良いので 6/4 分は水草と一緒にしている。6/10 以降 3~4 回産卵している。稚魚が大きくならないのは何故。尾びれがないものや腰の曲がっているものがある。(橋本)200 尾くらいを 4 つの水槽で飼育している。(河野)4 月下旬に 30 尾くらいいた。その後 2 回ぐらい産卵してベビーバスタブに入れていたが大雨で流されて 2 尾残った。(高橋布)二つのたらいを使い産卵した水草を 2 回分毎に入れて 1、2 としているが、数えたら 1 に 152 尾、2 に 315 尾、計 467 尾。「どうしてそんな正確に数がわかるのか」という質問。目の細かい網で掬って移しながら数えている「一同感心」。(大石)中学校の授業で 17 個の 40 センチ水槽にセットした。翌日にはほとんどの水槽で産卵が確認できた「鐘ヶ江」。(村上)二田の堤から持ってきた稚魚が 100 尾くらいいる。四月分は 30 ミリくらいになっている。餌はミジンコ。親魚は 20 尾くらい。(鐘ヶ江)水分小に亀がいる。じゃまなので誰か貰ってほしい。

【B 水路調査】当日 9 時、現地集合で捕獲器具を設置しようとしたが、ヒナモロコ水路の流れがほとんどなく、捕獲することは困難と判断して、器具の設置はしませんでした。流量不足の原因は前々日に大雨の予報が出ていたため、地元の人が排水路のオーバーフローを心配して(以前溢れ出したことがある)流量調整のゲートを完全に降ろしてしまったために、ヒナモロコ水路への水の取れいれ口まで水位が達していない状態、つまり水が流れない状態になったためです。



調査は稚魚の確認に絞って行いましたが、稚魚を確認することはできませんでした。

その後、ミジンコを求めてO水路とおたから堀周辺を見学しました。



尚、N水路では小早川先生が稚魚を確認したとのこと「6/19 鐘ヶ江 談」。

タナゴ用水路(環境水路)への放流会参加6/19(金)



竹野地区の圃場整備事業計画 112ha の内 63ha が完了しています。環境に配慮した事業で、ヒナモロコ水路の創設、タナゴ用の水路、ホタルなどに配慮した水路などが計画されていました。

今回はニッポンバラタナゴが生息する水路として、上の写真のように、各種の工作物が水路に作られています。排水路としての機能は、この工作物の上部を排水が流れていくという想定のようなのです。昨年、整備前に捕獲避難させ、関係事業所で保護されていたニッポンバラタナゴを 75 尾、カゼトゲタナゴ 421 尾、ヌマムツ 274 尾、アブラボテ 153 尾、カネヒラ 4 尾、ドジョウ 20 尾、カメヤドンコなど 75 尾、計 1022 尾の魚が放流されました

当日の様子を NHK は夕方のニュースで、KBC は後日、番組「アサデス」で放映されています。KBC では「水と緑のキャンペーン」として取り扱われています。今後も映像は使われると考えられます。

次回 第73回定例会の予定

8月23日(月) 10:00~12:00 於 田主丸中学校

情報交換

B水路(ヒナモロコ水路)調査、放流地を探る調査等

